

公益信託武見記念生存科学研究基金
武見賞受賞者一覧表
(職業は受賞時のもの)

1. 武見記念賞

	受賞者(職業)	受賞理由
第1回 (昭和62年度)	H.H.Hiatt (ハーバード大学教授)	包括医療政策の研究を指導するとともに、「国際保健武見講座」を同大学に設立した
	土屋 健三郎 (産業医科大学学長)	「生存の理法」の具体化のため、衛生学を始めとする産業医学を通じ生存科学の発展に多大の貢献をした
第2回 (平成1年度)	大瀬 貴光 (元国連アフリカ経済委員会顧問)	生存科学の理念を身をもって実践した
	矢口 光子 (農村生活総合センター専務理事)	我国の農村における生活の安定と福祉の向上のために理論と実践をもって貢献した
第3回 (平成3年度)	W.W.Leontief (ニューヨーク大学教授)	産業連関分析による公害防除モデルの創始と医療モデルの構築を行い生存科学の発展に多大の貢献をした
	中尾 喜久 (自治医科大学学長)	大学の教育を通じて「地域医療」の理念を実践し「健やかな生存」という理想の実現に多大な貢献をした
第4回 (平成5年度)	国井 長次郎 (財)保健会館理事長)	寄生虫予防・家族計画等の運動を全国で実践すると共に、海外で寄生虫予防・栄養・家族計画のインテグレーション運動を展開した
第5回 (平成6年度)	若月 俊一 (佐久総合病院総長)	農村医療の拠点である佐久病院での実践を通して農村医学を振興し、地域包括医療体制を先進的に確立した
第6・7回 (平成7・8年度)	該当者なし	
第8回 (平成9年度)	江草 安彦 (社会福祉法人旭川荘理事長)	旭川荘及び川崎医療福祉大学での実践を通じて障害者高齢者の医療福祉の向上と理念の実現に貢献した
第9回 (平成10年度)	該当者なし	
第10回 (平成11年度)	唄 孝一 (北里大学客員教授)	「医療における法と倫理」の在り方の研究実績及び医学部・病院における実践的課題への貢献

	受賞者(職業)	受賞理由
第11回 (平成12年度)	宮崎 亮 (王滝村診療所所長)	アフリカ・アジアの最貧地方に身を投じ、20年余に亘り献身的現地医療を行った実践力と純粋さ
第12回 (平成13年度)	澤口 彰子 (東京女子医科大学 ・副学長)	法医病理学における窒息論の今日的展開と、東京都監察及び警視庁嘱託医としての社会医学的応用実践
第13回 (平成14年度)	該当者なし	
第14回 (平成15年度)	小林 登 (国立小児病院名誉 院長)	子どもをめぐる諸問題の解決にあたり生存科学の実践としてこれを行ない、子ども学の体系づけを試みるなど育児、保育、教育の問題解決に多大の貢献をした
	武見記念特別賞 リンカーン・チェン (ハーバード大学教授)	初代ハーバード大学武見記念講座教授として数多くの武見フェローを育て、又途上国の健康開発にも尽力し、世界の貧困対策に大きく貢献した
	武見記念特別賞 マイケル・ライシュ (ハーバード大学教授)	ハーバード大学武見記念講座を極めて有効に維持運営し百数十名の武見フェローを世界に送り出し、生存科学の普及に貢献すると共に、我国の医療行政に関する研究においても多大の貢献をした
第15回 (平成16年度)	該当者なし	
第16回 (平成17年度)	該当者なし	
第17回 (平成18年度)	該当者なし	
第18回 (平成19年度)	該当者なし	
第19回 (平成20年度)	該当者なし	
第20回 (平成21年度)	寺澤 捷年 (千葉大学大学院教授)	日本伝統医学の承継と発展及び和漢診療学の形成に多大な貢献をした

	受賞者(職業)	受賞理由
第21回 (平成22年度)	福井 光壽 (医療法人社団珠光会)	長年にわたる医師会活動を通じて、「医療は医学の社会的適用である」との理念に基づき包括的且つ学際的手法を具体的に実践し、地域医療の充実・発展に多大な貢献をした
第22回 (平成23年度)	前沢 政次 (地域医療教育研究所 代表理事)	日本プライマリ・ケア連合学会による東日本大震災支援プロジェクトの創設により被災地域の保健・医療・介護の各分野における復興支援活動に多大な貢献をした
第23回 (平成24年度)	山下 俊一 (福島医科大学副学長・ 長崎大学教授)	福島第一原子力発電所事故後における住民とのリスクコミュニケーションと県民健康管理調査の立ち上げ・推進に多大な貢献をした
第24回 (平成25年度)	国立大学法人弘前大学 被ばく医療総合研究所 (所長柏倉幾郎)	福島第一原子力発電所事故発生以前からの緊急被ばく医療の研究と人材の育成、及び福島県浪江町町民の放射能による健康被害の調査と町民支援に多大の貢献をした
第25回 (平成26年度)	河内 一郎 (ハーバード大学公衆 衛生大学院教授)	長年にわたり公衆衛生領域の分野において「健康に影響を与える社会的決定要因」の研究に取り組み、社会疫学の領域におけるパイオニアのひとりとしてその確立と発展に多大な貢献を果たしたことが高く評価された
第26回 (平成27年度)	該当者なし	
第27回 (平成28年度)	島尾忠男 (公益財団法人結核予 防会名誉顧問)	日本および世界の結核制圧に向けて60年以上にわたり多角的な研究、社会的活動、人材育成に多大の貢献をしてきた
		以下余白

2. 武見奨励賞

	受賞者(職業)	受賞理由
第1回 (昭和63年度)	推薦者なし	
第2回 (平成2年度)	花田 恭 (厚生省人口問題研究所)	人口統計学を駆使して死亡水準低下の社会経済的要因分析と社会経済への影響の計測を行った
	◎グループ研究 土方 正夫 (早稲田大学社会学部) 齊木 崇人 (神戸芸術工科大学環境デザイン) 掛谷 誠 (京都大学文化人類学)	筑波大学大学院環境科学研究科で、「流域文化の成立と定住様式の変遷に関する文明生態学的研究」に参加し、地域の生存に係る諸問題への研究と実践に努力され、生存科学研究所の研究に参加して実践的研究を継続している
第3回 (平成4年度)	津谷 喜一郎 (東京医科歯科大学難治疾患研究所)	伝統医学の国際的普及・発展活動に貢献すると共に、難治性疾患を含む各種疾患に対する臨床試験の方法論の開発に努力をしている
	大林 雅之 (産業医科大学医学部)	「生存科学としてのバイオエシックス」に関する科学哲学的研究で業績を挙げている
第4回 (平成6年度)	該当者なし	
第5回 (平成7年度)	卜部 文麿 (卜部医院院長)	地域における精神衛生保健の推進及びバイオエシックスの研究と普及に多大な貢献をしている
	真柳 誠 (北里研究所医史学研究部)	東アジアに於ける伝統医学と医療文化の伝播と交流に関する調査研究及びこれらの文献の復刻と普及に多大な貢献をしている
第6回 (平成8年度)	推薦者なし	
第7回 (平成9年度)	該当者なし	
第8回 (平成10年度)	藤野昭宏 (産業医科大学助教授)	産業医学、特に産業生態学と生存科学の関係についての研究に注力
第9回 (平成11年度)	該当者なし	
第10回 (平成12年度)	該当者なし	

	受賞者(職業)	受賞理由
第11回 (平成13年度)	該当者なし	
第12回 (平成14年度)	該当者なし	
第13回 (平成15年度)	該当者なし	
第14回 (平成16年度)	岡原 猛 (堺市医師会理事)	堺市学童集団下痢症(O157)における溶血性尿毒症症候群発症グループのフォローアップ活動に対し高い評価を得る
第15回 (平成17年度)	後藤 信哉 (東海大学医学部助教授)	動脈系血栓性疾患を症状が発現する臓器にかかわらずアテローム血栓症として包括的に対応する研究が評価された
	宮本 敏伸 (旭川医科大学医学部助手)	今日的な社会問題である少子化の原因の一つとして男子不妊症の解明というユニークな着眼研究が評価された
第16回 (平成18年度)	小賀 徹 (京都大学大学院医学研究科産学官連携研究員)	慢性呼吸器疾患患者に患者立脚型指標を用いて解析しいかに充実した人生を送るかという生存の質の向上研究に貢献したことが評価された
	松沢 厚 (東京大学大学院薬学系研究科助手)	病原体感染に対する生体防御機構に焦点を絞り分子レベルでの分析を行い、生死の決定要因としての活性酸素の働き解明に貢献したことが評価された
第17回 (平成19年度)	安藤 寿康 (慶應義塾大学文学部教授)	教育心理学を基礎とした心理学的視点から行動遺伝学と双生児研究を行い大規模双生児データベースの構築を通じて行動遺伝学研究的の推進に貢献したことが評価された
	橋爪 真弘 (長崎大学熱帯医学研究所COE研究員)	地球温暖化がもたらす健康影響をバングラディッシュで明らかにし疫学・気象学に跨る学際的な研究に貢献したことが評価された
	山本 太郎 (外務省国際協力局多国間協力課課長補佐)	新興感染症対策の新たなパラダイム「共生・共存」について提言を行い学究・行政の両面で新興感染症の対策に貢献したことが評価された
第18回 (平成20年度)	神馬 征峰 (東京大学大学院医学系研究科教授)	発展途上国における包括的学校保健(政策、環境改善、地域連携、保健栄養サービス、疾病予防)の推進に貢献したことが評価された
	元雄 良治 (金沢医科大学腫瘍内科学教授)	臓器横断的分野としての腫瘍内科学の確立と集学的がん治療への伝統医学の応用の研究に貢献したことが評価された
第19回 (平成21年度)	東田 千尋 (富山大学和漢医薬学総合研究所 助教)	伝統薬物を基盤とした創薬による神経変性疾患の新しい治療戦略の研究に貢献したことが評価された
第20回 (平成22年度)	慶應義塾大学医学部 日中医学交流協会	単に医学に関して知見を広めるだけでなく、現地で生の文化・歴史・哲学・経済に触れ現地医学生との交流を持つことで総合的・全人的知識を得ることを主眼において長年にわたり活動したことが評価された

	受賞者(職業)	受賞理由
第21回 (平成23年度)	藤沼 康樹 (医療福祉生協連家庭医療学開発センター生協浮間診療所センター長)	長年にわたる「地域基盤型医学教育のための方略開発と実践の研究」と「プライマリ・ケア現場における臨床研究グループの構築による家庭医療学の開発」に向けた研究活動が評価された
	西浦 博 (香港大学医学部公共衛生大学院助理教授)	数理的解析手法による感染症流行の特徴や対策の効果に関する研究により感染症対策の数理モデルの構築と検証に向けた研究活動が評価された
第22回 (平成24年度)	大塚 耕太郎 (岩手医科大学医学部特命教授)	東日本大震災による被災地における災害時精神医療と自殺対策とを連動させた被災地保健医療への取組みが評価された
第23回 (平成25年度)	野崎 威功真 (国立国際医療研究センター国際医療協力局医師)	ザンビアにおけるHIV抗ウイルス療法(Anti-retroviral therapy; ART)の農村部への拡大と、治療の服薬遵守率に影響を与える文化的・社会的要因の研究への取組みが評価された
第24回 (平成26年度)	加藤 昌志 (名古屋大学大学院医学系研究科環境労働衛生学教授)	「ヒトの生存に不可欠である安全な飲用井戸水を開発途上国に供給するための総合研究」によりヒトの生存にかかわる疾患の発生を予防し、保健・医療・福祉を向上させるための学際的総合研究を推進していることが高く評価された
第24回 (平成26年度)	岡本 希 (奈良県立医科大学地域健康医学教室講師)	「地域在住高齢者における認知機能障害と歯周病との関連」の研究により超高齢化社会を迎えたわが国の認知症機能障害の予防として歯周病予防の重要性を提唱するとともにその研究成果の衛生行政施策への還元に取り組んでいることが高く評価された
第25回 (平成27年度)	中尾 睦宏 (帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授)	公衆衛生学見地に立った保健・医療・福祉の包括的な社会医学研究により、医学における「生物-心理-社会モデル」の科学的基盤の構築に取り組んでいることが高く評価された
	鈴木 越治 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科助教)	社会的格差と地理的格差の両面から健康格差を包括的に評価する先進的な統計学的手法を用いた大規模研究に取り組んでいることが高く評価された
	近藤 誠 (大阪大学大学院医学系研究科助教)	脳可塑性の分子機序に関する研究を展開し、認知・情動機能に関わる精神神経基盤の理解の推進と精神神経疾患の病態解明や予防・治療法確立を目指していることが高く評価された
第26回 (平成28年度)	葛西健 (世界保健機関西太平洋地域事務局)	アジア太平洋における新しい感染症対策モデルの確立並びに対策に必要な新しい技術の開発と10年にわたる実践が高く評価された
	金子聡 (長崎大学熱帯医学研究所主任教授)	貧困層を中心とする複数感染症の一括・同時診断技術開発と広域監視網構築のための汎アフリカネットワークの構築に関する研究が高く評価された
		以下余白